

初めての中国と海外の人との交流

建築工学科 2年
泉 直人

11月25日から12月1日まで、PENインターナショナル親善大使（NTIDの学生6人とTCTの学生3人）、そして先生達を含め約20名が中国の天津にある「天津理工学院聾人工学院」の学生や教職員と交流することを目的として中国を訪問しました。

私自身、今回の訪問が二度目の海外旅行です。しかし、中国へ行くことは初めてであり、また海外の学生と交流することも初めてでした。それなりに期待もありましたが、「うまくやっていけるかどうか」という不安もありました。

北京空港到着後、天津に着くまでバスの中でNTIDの学生と一緒にになりました。それまで海外の人々と会話したことがなかった私は、最初は何と言えばいいのかわからない状態でした。他の皆さんが上手くコミュニケーションしていましたので、友達の助けもあってASL（アメリカ手話）がほとんど出来なかった私も、英語の筆談で何とか会話が出来ました。初めてアメリカの学生と交流をして、コミュニケーションや会話は「英語」だけではなく、他の方法でも成り立つことがわかりました。例えば、顔の表情や身振りのみでもコミュニケーションが出来るなどです。ASL（アメリカ手話）もこの一週間で自然に覚え、最後は筆談なしでも会話がスムーズに出来ました。帰国後、何日かたった今もASL（アメリカ手話）はほとんど忘れていません。中国の手話も同じようなことが言えますが、その環境に馴染んで覚えたことは印象深く残り、なかなか忘れないことも今回の訪問で気がついたことの一つでした。

中国滞在中、天津理工学院大学や天津聾学校、またテレビ塔、寺院などを見学しました。天津理工学院大学の外観は素晴らしいものでありましたが、トイレなど環境設備などが十分に整っていないなど、他の色々な建物を見学して、日本の建物と比べて遅れていると強く感じました。また、交通の設備もあまりよくなく、車線をはみ出して走行する車、信号を無視して渡ろうとする人の姿も珍しいことではなかったです。

実際に中国へ訪問して、日本では見られないようなことが数多くあり、中国という国の「珍しさ」と「恐怖」を感じました。

夕食後は毎晩、中国の学生との交流で盛り上がりました。中国の学生は、私達日本人と見かけがあまり変わらないので、親近感がありましたが、いくら顔や外観が似ていても、こちららは日本語、向こうは中国語です。コミュニケーション方法は主に英語の筆談でしたが、漢字を使ってお互いに通じることもありました。各国の手話をお互いに教えたり、中国や日本についての事を語ったり、またジョークを交わしたりするなど色々楽しく交流出来ました。一時間も交流していれば、お互いに友人のようでした。中国の学生の表情や身振りは、アメリカの学生とまた違ったものを感じました。例えば、笑ったりあるいは怒ったりするなど表情の変化が激しかったです。以前は、「中国人はクールだ」と思い込んでいましたが、現実とは違いました。「日本人の方がクールじゃないのかな」と感じました。

アメリカ、中国、日本の聾教育システムについても色々知ることが出来ました。アメリカの学生は、手話中心で声はほとんど出していなかったが、中国の学生は、手話がほとんど出来なく、口話中心の学生が多かったです。中国の学生は聴力が軽い人が多く、発音が良い人も少なくなかったです。一部の聾学校は、普通の学校と隣接している為、健聴者と交えて講義を受けることもありました。授業の様子は、口話中心でありましたが、手話を使う先生も何人かいました。幼い時から発音を中心にして教えていく聾学校教育システムは、日本と同じような教育システムでした。それから、中国の学生に「国から聴覚障害に対してどんなことを行っているか」を伺ってみました。「聴覚障害者には、車の免許を与えることが出来な

い」ことについては、驚きました。他にも色々、禁止されていることがあり、中国の国自体が聴覚障害者に対する対策がアメリカや日本と比べて遅れていると強く感じました。

PENインターナショナル親善大使として中国を訪問しましたが、あらゆる所で「物足りなさ」を感じました。中国の学生は歓迎会など熱心に迎えてくれたり、立派なお土産を作ってくれたり、私達の為に色々なことをしてくれました。しかし、肝心の交流や会話は、なかなか上手く出来ませんでした。理由は、英語が判らない学生が多く、その人たちと会話するのに大変でした。世界の共通語は「英語」であることをしっかり学んで来てほしいという気持ちもありました。また、日本やアメリカの準備の方も足りなく、中国の学生に対して申し訳ないと思いました。今後のPENインターナショナルでの活動は、今回の中国の訪問で足りなかった所や欠点などを見直し、各国の学生が上手く交流出来るようにし、本来の目的である「PEN-インターナショナル」を創り上げてほしいと思います。

この一週間、私は数多くの経験をさせてもらい、色々な新しい発見をしました。世界各国の色々な人と交流することで、視野が広がり、数多くの友人が出来、楽しくなるということがわかりました。そのような意味で、今回の訪問は大変貴重な経験でした。これから社会に出て行きますが、この貴重な経験を生かしてあらゆる面で社会貢献できる活動をして行きたいと思います。それから、今回の訪問を機に、これからも世界各国の旅行を計画し、色々な人々と交流をし、もっと視野を広めて行きたいと思います。